

# 外国語活動部会

**研究主題** 英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら  
コミュニケーションを図ろうとする児童の育成

## 1 主題について

今年度は、外国語活動が年間35単位時間の完全実施となって2年目となる。そこで、外国語活動の目標を踏まえて、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成を目指し、本テーマを設定した。

## 2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月7日	第2回総合研究会 授業研究会（城南小学校）

## 3 研究内容

### (1) 授業研究

- ・期 日 平成24年11月7日（水）
- ・会 場 城南小学校
- ・単元名 6年 Hi, friends! 2
- ・授業者
- Lesson 5 Let's go to Italy. HRT 佐々木 大
- 支援員 中村伊久美
- ALT マイク・シュアイツァー

### ① 授業者から

- ・事前に行ったアンケートでは好きという答えが多かったが、自信が持てない、間違うと恥ずかしい等の理由で苦手意識をもっている児童も見られた。そこで、自由記述には「外国の方とふれあいたい」という声もあったので、意欲向上の効果も考え、ALTのマイク先生の協力を仰いだ。これは、単元との出会いの場で効果があったと考えている。
- ・コミュニケーション能力に関しては、現時点では、多少の曖昧さや間違いを許容し、まずは楽しんで話すことを大切にしてきた。
- ・ゲームのルール説明については、子どもに分かりやすく説明するために基本的には日本語で行っているが、既習事項の英語は使っている。すべてが英語では分からなくなるからである。活動への指示は英語を使っている。

### ② 協 議

- ・本時のめあてだけでなく、単元のゴールがあったことがよかった。児童が見通しをもって活動に取り組んでいた。
- ・導入に15分をかけていたが、単元の1時間目なので分かりやすかった。また、導入からの展開もスムーズであった。
- ・HRTが「間違ってもいいんだ」という姿勢を示すことで子どもたちの英語へのハードルが下がり、苦手意識をもっている子どもへの支援となっていた。正しい言い方や発音については中村支援員に提示してもらおうという連携を図ることでクリアできていた。
- ・活動ごとに児童が意欲的に取り組むしかけがあり、どの子どもも楽しんで取り組んでいた。

(しかけの具体例)

- ◇リズムに乗りアクションを入れて会話の練習ができるようタンバリン等を使う。
- ◇国旗クイズの際に一部だけが見える袋に入れて提示する。
- ◇ALTを紹介する際に、HRTの友達のマイク先生が電話をかけてきたという場面設定をし、子どもたちのワクワク感を演出する。
- ◇「メイクペアゲーム」では、カード、はんこ、子どもたちにとってそれぞれの国をイメージできる写真など、世界旅行をしている気分を演出する。
- ・ゲームで、たくさんの国のはんこを集めることに児童の気持ちがいったしまったときに、HRTが止めて、きちんと相手の目を見て、コミュニケーションをとりましようといった活動の目的を確認していたのがよかった。



【パーサーとCAに扮して  
世界旅行の雰囲気作りをする】

## (2) テーマ研究

- ・ALTや支援員との授業の打ち合わせ資料を持ち寄り、2グループに分かれて効果のあった授業の構成やアクティビティーについて情報交換を行った。

## (3) 指導助言 (石井 むつみ 指導主事)

- ・楽しい授業であっただけでなく、外国語を用いてのコミュニケーションの楽しさを体験し、満足感のある授業であった。
- ・チケットをもらい税関を通過して飛行機に乗って出かける、しかも一人ではなく、友達を誘ってという活動が魅力的である。教材や場の設定がよく考えられており、教室というより、世界旅行の疑似体験の場となっていた。教材の準備もよく、子どもたちの心をくすぐる工夫、やりたくなるしかけがたくさんあった。
- ・メイクペアゲームでは、中間評価を入れることでその後の活動の質が上がっていた。
- ・指導者が3人いたので、もっとそれぞれの持ち味を生かした授業もできたのではないか。HRTがリードするのはもちろんだが、指導者同士の掛け合いがあると更に効果が上がる。ゲーム等の説明を支援員(またはALT)に英語でしてもらい、HRTが語尾やキーワードを拾っていくと子どもが理解しやすくなる。HRTが授業をコントロールすると同時に、積極的に支援員を活用していくことが大切である。
- ・全ての授業に高いテンションが求められるのではなく、「nice voice, nice smile, nice action」で取り組んでほしい。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・本時のめあてだけでなく単元のめあてを明示することは、児童が見通しをもって活動に取り組む上で効果があった。
- ・児童が英語でのコミュニケーションの楽しさを味わうためには、ねらいにそった場の設定を工夫したり教具を準備したりすることが大切である。

### (2) 課題

- ・TTでの授業をより効果的なものにするためには、デモンストレーションなどでのそれぞれの役割りを明確にしていく必要がある。